

第18回醍醐敏郎杯全国少年柔道錬成大会要項

1. 目的 次代を担う少年に正しい柔道を身につけさせ、本大会を励みとして益々積極的に柔道の習得に努めて、心身の健全な発達と相互の親睦を図ることを目的とする。
2. 主催 長野県柔道連盟・長野県中信柔道連盟
3. 共催 (公社)長野県柔道整復師会・長野県柔道整復師会中信支部・学校法人光和学園信州医療福祉専門学校
4. 主管 長野県中信柔道連盟
5. 後援 長野県・松本市・長野県教育委員会・(公財)長野県体育協会・松本市教育委員会・(財)松本体育協会
6. 特別協賛 JTB(中部)松本支店
7. 協賛 ベースボールマガジン社「近代柔道」・スポーツニッポン新聞長野支社・信濃毎日新聞社・松本商工会議所
(一般社)松本観光コンベンション協会 (順不同)
8. 日時 平成25年11月23日(土) 受付 午前10時～、開会式午後1時・練習試合午後2時～4時
平成25年11月24日(日) 午前8時 トーナメント開始
9. 会場 松本市総合体育館(松本市美須々5-1 TEL0263-32-1818)
10. 種目 団体戦:小学生低学年の部(4年生以下)・小学生高学年の部・中学生男子の部・中学生女子の部
11. 参加資格 (1) 対象は小・中学生とし、現に各加盟団体の小・中学校に在学している者であって、「学校」「柔道場」「クラブ」「スポーツ少年団」「分団」単位とする。
(2) 選手本人の出場意思を確認し、健康に十分な配慮を行い保護者並びに団体の承認を得ること。
出場チームは、指導者が必ず監督として引率すること。
(3) 勝敗にこだわり、選手を臨時に他のチームから移籍する等の行為があった場合は、そのチームを失格とし、今後の本大会への出場を認めない。
(4) 監督、チームとも当該年度全日本柔道連盟に登録済みであること。
出場する選手は、出場するチームを通じて競技者登録をしていること。
(未登録チームは出場できないので、速やかに所属連盟に登録手続きを行うこと。)
(5) 皮膚真菌症(トングランス感染症)について、発症の有無を各所属の責任において、必ず確認すること。感染が疑わしい若しくは感染が判明した場合は、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし、選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場できない場合もある。
12. 構成 (1) チームの編成は学校、分団または道場単位とし、混成チームの出場は認めない。
(2) チームは中学生女子の部以外は5人編成、中学生女子の部は3人編成とし、危険防止のため下記
(ア)(イ)のとおりとする。
(ア) 小学生低学年の部は、先鋒1年生・次鋒2年生・中堅3年生・副将と大将は4年生とする。ただし、学年なき場合は下学年を入れるものとするが、同学年の場合は体重の軽い選手が前へくるようにし、必ず学年順とする。(※申し込みに誤りのある場合、事務局にて訂正する場合があります。)
(イ) 小学生高学年、中学生男子の部及び中学生女子の部は体重の軽い順とする。
13. 申し込み (1) 事務局から送付する申し込み用紙(A4)または、Excel ファイルにて平成25年9月22日(日)(当日消印有効)までに申し込むこと。(今後は順次 web 申し込みに変更いたします。)
※柔道ながの(長野県柔道連盟HP)にて、<http://judo-nagano.net/> 申込用紙をダウンロードして(Excel ファイルにて)申し込むこと。
その場合、E-mail :daigo_recep@yahoo.co.jp へ添付ファイルとして送付すること。

(2) 郵送申し込み先 〒399-0701長野県塩尻市広丘吉田909-10

村山整骨院内 醍醐敏郎杯大会事務局 TEL 0263-58-1156

※E-mail 送付先: **daigo_recep@yahoo.co.jp**

(3) 組み合わせは大会事務局において行う。

※全国大会上位入賞団体は申し込み用紙にその旨記入すること。

※郵送・E-mailでの申し込みのみ有効とする。(FAXでの申し込みは受け付けません。)

14. 選手変更 (1) 申し込み後の選手変更は、下記のとおりとする。

(ア) 選手変更は、変更後のオーダーが上記12.構成(2)に沿うように組むこと。

また、チーム間での変更は不可能とする。

(イ) 第1次締切日:平成25年9月22日(日)大会プログラム掲載のため。

(ロ) 第2次締切日:平成25年11月23日(土)午前10時~午後3時(選手変更のため)

:平成25年11月24日(日)午前7時~8時(選手変更のため)

15. 出場数 各団体各階級とも2チームまでとする。

16. 試合方法 (1) 試合はトーナメント戦で行い、1チーム5名(中学女子の部は3名)の点取り対抗戦とする。

(2) チームの勝敗は、次の順によって決定する。

(ア) チーム間における勝ち数の数による。

(イ) ア.において同等のときは、内容によって決定する。

(ウ) イ.において同等のときは、代表戦によって決定する。

(3) 審判は、国際柔道試合審判規定及び少年大会申し合わせ事項により実施する。

(ア) 判定の基準は有効または指導2回以上の反則があったときとする。また、代表戦は僅差により勝敗を決する。(ゴールデンスコアは行わない)

(イ) 試合時間は小学生2分間とし、中学生3分間とする。

(ウ) 3位決定戦は行わない。

17. ゼッケン ゼッケンを下記要領により選手の柔道着に付けること。

(1) 布地は白色(晒 太綾)

(2) サイズは横30cm~35cm 縦25cm~30cm

(3) 名字(姓)は上側2/3 所属名は下側1/3(横書きであること)

なお、同姓がチームにいる場合は、名前の最初の一字をいれる。

(4) 書体は太いゴシック、明朝(楷書 毛筆体を含む)

男子は黒色、女子は濃い赤色。

(5) 縫付けの場所は後ろ襟から5cm~10cm下部に位置する場所に縫い付け、

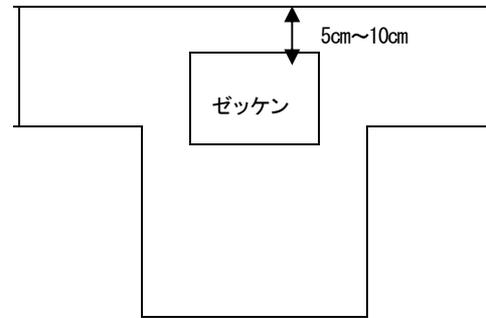
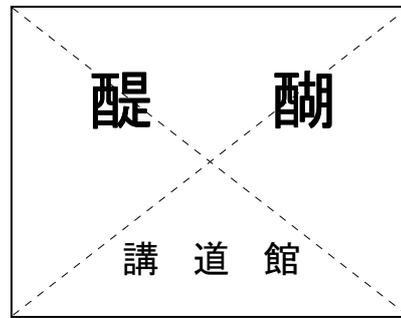
途中で外れることのないよう、対角線にも強い糸でしっかり縫い付けること。

(6) ゼッケンを縫い付けていない選手は出場できない。

各チームごとに、ゼッケンの所属団体名の統一のこと。胸マークについて条件はありません。

横30cm~35cm

縦25cm~30cm



18. 表彰 第1位から第3位まで表彰する。(各階級1位の醍醐杯は持ち回りとする)

19. その他 (1) 参加する選手の競技中・練習中の怪我・疾病等について、医師にかかる経費及びその後の責任について主催者側は一切負わないものとする。

(参加者全員が各自傷害保険に加入することをおすすめします、健康保険証を持参のこと)

(2) 諸会議等

(ア) 審判会議 平成25年11月24日(日)午前7時30分~ 松本市総合体育館大会議室

(イ) 監督会議 平成25年11月23日(土)午後2時 ~ 松本市総合体育館大会議室

(監督会議に欠席の団体は、監督会議の内容を了承したものとする)

(3) 宿泊、弁当は、別紙にて申し込みをすること。

※脳震盪について

- ・大会前1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。
- ・大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。
(なお、至急、専門医[脳神経外科]の精査を受けること)
- ・練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
- ・当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。

※お願い

本大会は、身体的にも精神的にも発達途上の小学校児童を含む選手の大会であることを常に念頭におかれて、特に危険防止について考慮されたい。また、礼法を正しく行わせることはもとより、姿勢組み方についてもご配慮・ご指導をお願いしたい。

監督・コーチの役割

1. 監督・コーチは、選手への様々な状況における指示、戦術的なアドバイス、怪我の対応など、選手とのコミュニケーションを取ることを目的とする。
2. 監督・コーチは、自身の選手が大会会場に入場してから退出するまでの間、選手の行動に責任を持たなければならない。

監督・コーチの場所

1. 原則として各試合場の正面と反対側、あるいは試合場の横側に、監督又はコーチ 1 名のみ入ることが許され、用意された椅子に着席しなければならない。

監督・コーチの言動

1. 試合が止まっている間（「待て」から「始め」の間）のみ、選手に対して指示を与えることができる。試合続行中は、選手に対して指示を与えることが許されない。
2. 次の行為を禁止する。
 - (ア) 試合が続行している最中に指示を出すこと。また、試合中に立ち上がること。
 - (イ) 審判員の判定に対し、コメントや批判、或いは訂正を要求すること。
 - (ウ) 対戦相手、審判員、役員、一般客、および自分自身の選手を侮辱するよう行為。
 - (エ) 広告看板や器具に触ったり、殴ったり、蹴ったりすること。
 - (オ) その他、柔道精神に反する行為
3. 原則として、監督・コーチは審判員に準じた服装とし、ID を付けるものとする。

罰則

上記に違反した場合は、下記による処分を科すものとする。

1. 1 回目は、審判員が合議の上、口頭による注意をする。
2. 1 回目の注意で改善されない場合は、審判員が大会委員長または審判長に報告の上、大会委員長または審判長の責任のもとにその試合が終了するまで試合場フロアの外へ退去させる。但し、試合はその後も続行するものとする。
3. 次の試合からは、また監督・コーチ席に座ることができるが、その後も改善が見られない場合は、醍醐敏郎杯全国少年柔道錬成大会では、試合場フロアへの入場を禁止する場合もある。

以上